

# 25PB-pm277

多変量解析を用いた早期臨床体験における学修成果の検討 —臨床現場依存の見聞・体験との関連性—

○串畑 太郎<sup>1</sup>, 生田 陽光<sup>1</sup>, 西川 智絵<sup>1</sup>, 栗尾 和佐子<sup>1</sup>, 安原 智久<sup>1</sup>, 曾根 知道<sup>1</sup> (1 摂南大薬)

【目的】本研究では、薬学部に入学者の薬剤師や医療に対する志向と、訪問施設での実施内容が、早期臨床体験での学修成果に与える影響を、施設での見聞・体験の実態調査とプレ・ポストアンケート結果の多変量解析から検討する。

【方法】2016年度1年次生217名は、病院(45グループ・25施設)、薬局(54グループ・26施設)で早期臨床体験を行った。実施後、施設で見聞・体験した内容を病院・薬局(各26項目)でグループ毎に調査した。各調査結果を、「臨床現場依存の見聞・体験か、否か」を基準に判別し、臨床現場依存の見聞・体験度を算出した。また、個人を対象に実施した、薬剤師に対する志向に関するプレアンケートと、施設訪問で受けた印象に関するポストアンケートの結果を用いて、因子分析・クラスター分析を行い、学生をプレクラスター(A~E群)、ポストクラスター(F~J群)に分類した。プレクラスターからポストクラスターへ推移した群毎に施設での臨床現場依存の見聞・体験度とのクロス集計を行った。

【結果・考察】臨床現場依存の見聞・体験度は、病院:  $8.7 \pm 3.8$ 、薬局:  $10.2 \pm 4.3$ であった。クロス集計の結果、各群から病院・薬局双方への関心が高く、医療人としての自覚も高いF群へ推移した群の体験度は、病院: 9.3、薬局: 11.1 (n=50)と高い傾向が見られた。また、薬局への関心が高かったA群から薬局への関心が低いH群に推移した群の体験度は、薬局: 8.2 (n=5)、病院への関心が高かったB群から病院への関心が低いJ群に推移した群の体験度は病院: 6.8、(n=8)と低い傾向がみられた。臨床現場への周辺参加から得られる具体的な体験は、医療施設や薬剤師に対する職業的興味を高めると共に、学生の中に初期の薬剤師ロールモデルを構築させ、今後の学修意欲を向上させる効果が高い可能性が示唆された。